

ホタルを育てるのは きれいな水とあなたの心です

中島 邦夫 (なかじま くにお)
上ところホタル友の会会長

北見市内の西側に位置する自然豊かな上ところ町。紅葉が色づいた金刀比羅山のふもと、「金刀比羅さくら公園」の一角に、【ホタルを育てるのはきれいな水とあなたの心です】の看板がひとときわ目立つホタルの里で、上ところホタル友の会会長の中島邦夫さんにお話を伺いました。

《ホタルにける想い》

中島さんは、九州の身近にホタルがいる環境で育ちましたが、北見市に移り住んでから子どもたちがホタルを見たことがないと知り、ぜひ見せてあげたいとの思いから子ども会の父母たちを集め、1995年に「ホタル友の会」を立ち上げました。

北海道に生息しているのは、主に“ヘイケボタル”です。ヘイケボタルは体長7～10mmほどで、水の流れていない水田やため池などの止水域に生息しています。

かつて、上ところ町にもホタルが生息していたことを聞き、自然豊かな金刀比羅山の清流を利用して、水路や池を作りホタルが住みやすい環境を整備しました。

このホタルの里では、水路や池の周りに手作りの柵付き観賞路が設置され、すぐそばでホタルを見ること



ホタルの里に生息するヘイケボタル



ができます。これまでは、豪雨で設備が決壊したり、1カ月も雨が降らず水が干上がるなど自然災害での苦労もありました。また、近年は農薬の使用、越冬環境の変化などによってホタルが少なくなっており、友の会の会員たちは人工飼育、幼虫のえさの確保、水路やため池の草刈りなどを行いながらホタルの増殖に力を入れてきました。

毎年、7月中旬から8月中旬のホタルが見られる期間中には、会員が常駐しホタルの生態などを解説します。また、2日間にわたる「ホタル祭り」を開催し、縁日や地場産野菜の販売なども行っています。

《自然と共存し、夢とロマンがあふれるホタルの里》

自然豊かなホタルの里には様々な珍しい野鳥も生息していて、今話題のシマエナガも見られることがあり、全国から野鳥ファンが訪れています。

友の会でも、会員が撮影したプロ顔負けのホタルや野鳥の写真を、運営費に寄付して下さった方へ配布し人気を集めています。

近年の新型コロナウイルスまん延で、お祭りなども中止になりました。中島さんは収束を願い、竹で作った灯籠にろうそくを灯し、幻想的な空間を演出するなど、再び子どもたちの笑い声が戻ってくることを信じ、友の会のメンバーと共に、夢とロマンのあるホタルの里を大切に守っています。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。